

伊勢志摩サミットの経験を糧に

津消防タイムズ

第58号

発行 津市消防本部
〒514-1101
津市久居明神町
2276 番地

編集 消防総務課
企画調整担当
TEL 059-254-0353
FAX 059-256-7755

火災の問い合わせ
☎059-224-1881

三重県救急医療情報センター
コールセンター
☎059-256-1199

津市救急・健康相談
ダイヤル24
☎0120-840-299



↑伊勢志摩サミット消防特別警戒部隊結団式



↑伊勢志摩サミット消防特別警戒 統括警戒本部

五月二十六日(木)及び二十七日(金)の二日間、三重県志摩市において、伊勢志摩サミットが開催されました。
津市消防本部からは、警戒部隊として、指揮隊、ポンプ隊、はしご隊及び救急隊等、車両四台、総勢四四名の職員を派遣しました。
志摩広域消防組合消防本部に設置の統括警戒本部に派遣された指揮隊は、各国の要人が高速道路やヘリコプターで移



↑警戒飛行離着状況

動する際に、県内外から集結した警戒部隊に活動を指示する等重大な任務もありました。
また、伊勢市に派遣されたはしご隊は、横浜市消防局の指揮隊などとともに、サンアリーナ(メディアアセンダー)の警戒にあたるなど、各部隊とも県内外の消防本部と連携を図りながら活動しました。
今回のように、他消防本部と連携しながら活動したことは、非常に貴重な経験であり、この経験を糧に、津市が大規模地震等により甚大な被害を受けた際、他消防本部の応援部隊として、他消防本部の応援部隊として、他消防本部の応援部隊として、他消防本部の応援部隊として、一層の準備を進めていきます。
(警戒室 中嶋 勇輔)

総務大臣表彰を受賞

(救急課)

総務省消防庁は、九月九日の「救急の日」に、KKRホテル東京で、平成二十八年度救急功労者表彰を行い、医療法人永井病院(西丸之内)が総務大臣表彰を受賞しました。

同病院は、救急搬送患者を受け入れる二次救急の基盤となる救急医療体制の構築と地域の救急医療の推進に貢献され、その功績が認められたものです。今回表彰された永井病院の永井盛太理事長は、「このような表彰を受け光栄です。今後も地域医療の担い手として微力ながら貢献したいと思っております。」と述べられました。

(藪内 裕司)



↑表彰を受けた永井病院永井盛太理事長

『NET119』って、なに？

(通信指令課)

津市消防本部では、聴覚や言語機能などの障害によつて通話が困難な場合でも、GPS(全地球測位システム)機能付きの携帯電話やスマートフォンから119番通報ができる緊急通報システム『NET119』の運用を昨年度より行っています。

市内に在住・在勤・在学で音声による119番通報が困難な人を対象とし、事前に登録すること、緊急時における自宅からの通報には住所入力することなく場所を特定することが可能です。

また、津市内に限りませんが、外出先ではGPS機能と連携して通報場所を特定することが出来ます。操作は簡単ですので緊急時のために、『NET119』への登録をぜひお願いします。

(※システムのバージョンアップに伴い、名称がWeb119から『NET119』へ変更となりました。なお機能等の変更はありません。)

問い合わせ

【通信指令課】

Tel 254-0119
Fax 256-4100

【障がい福祉課】

Tel 229-3157
Fax 229-3334

【高齢福祉課】

Tel 229-3156
Fax 229-3334

(森川 恵一)

デージー分団パワーアップ
(中消防署)

津方面団デージー分団は、津市消防団初の女性のみで編成された分団で、名前の由来は「火無効く」とかけて、花の雛菊(別名・デージー)からとりました。

日頃から広報活動、防火指導、防火訪問、応急手当指導など幅広く活躍し、近年では、消防訓練も行っています。

デージー分団は結成して十年が経ちます。結成当初は七名でしたが、現在は二十四名となり、和やかさ溢れるチームワークで活動しています。

消防団は男性の仕事というイメージが強い中、今では女性消防団の存在がとて大きな

役割を果たしています。男性とは違った優しさ溢れる格好良さが感じられます。現在では、有事に備えた車両や機械器具の操作方法にも慣れました。

また、団員の大半が応急手当普及員講習を受け、救急の知識を身につけて幅広い消防活動の引き出しを増やす努力もしています。

さらに、六月十二日に開催された高茶屋地区安全フェスティバルでは、子供たちを笑顔にしたいでもてなし、写真撮影や車両説明をしていました。

このような日頃の活動や努力の積み重ねによりデージー分団は、津市にとつて、大きな存在になっていきます。

(藤本 卓)



↑高茶屋地区安全フェスティバルで活動するデージー分団

第四十五回消防救助技術 東海地区指導会に出場

(西分署)

七月二十六日に開催された第四十五回消防救助技術東海地区指導会障害突破訓練に、西分署チームが出場し、安全・確実・迅速性を競い合いました。東海地区で二チームだけが出場できる全国消防救助技術大会出場を目指し、昨年度の冬場から体力錬成や空気呼吸器の着装訓練などを実施してきました。四月からは本格的に訓練塔を使用して、日々厳しい訓練に取り組んできましたが、出場二十一チーム中十五位、総合得点四百八十点、タイム二分六秒(優勝タイム一分四十九秒、名古屋消防局)という結果となり、全国消防救助技術大会出場を果たすことができませんでした。



↑大会に向けて訓練中

しかし、この訓練で培った技術・体力・精神力を活かし、これからも津市民の安全を守るため、日々訓練に打ち込みたいと思います。

(内藤 貴人)

がんばれ前川楓さん

(安濃分署)

津市出身の前川楓さんが、リオで開催されたパラリンピックの走幅跳と百メートル競走の二種目に、日本代表選手として出場しました。

平成二十四年七月、当時中学三年生であった彼女は、散歩中に不慮の事故に遭い右足を失いました。本市救急隊が出勤しているため、記憶している職員もいると思います。強豪バスケットボール部副キャプテンとして、思い切り駆け回っていた彼女の失意は計り知れません。しかし、一年後に彼女は再び走り出しました。慣れない義足に最初の頃はうまく走れず楽しくなかったそうですが、二年後のジャパンパラ陸上競技大会では日本記録に迫る大会新記録で優勝、世界ランク六位につけて臨んだ世界選手権では七位入賞し、ぐんぐん実力を上

げてきました。

そして臨んだリオ・パラリンピックの大舞台で、彼女は大きく輝きました。走幅跳ではアジア新記録を出して四位入賞、百メートル競走では自己ベストを出して七位入賞を果たしたのです。すごい！

しかし彼女は既に四年後の東京パラリンピックを見据えています。きつと更なる高みへ登っていくことでしょうか。ご縁あつて親御さんと親しくさせていたただいていることもあり、彼女の活躍を切に願ってやみません。がんばれ、前川楓さん！

(山口 敬正)



↑四位入賞の賞状を持つ楓さん

やぶねり

(北消防署)

七月十一日、白塚町地内でや

ぶねりが開催されました。

八雲神社の夏祭りに行われる「やぶねり」は、祭神のヌサノオノミコトが退治した八岐大蛇をまねた青竹を束ねて作った「やぶ」をかついで町中を練り歩き、悪病退散などを願うエネルギーシユな祭りです。

これまででは、あまり救急車が呼ばれることはありませんでしたが、今回は祭りの最盛期に救急事案があり、祭りの中心に入ることになりました。

詳細な内容は掲載できませんが、実にエネルギーシユなお祭りで救急隊は大変でした。今後出来れば救急事案は起こらないことを祈ります(笑)。

(森川 悦二)



↑エネルギーシユな「やぶねり」

河芸方面団辞令交付式及 び新人訓練

(河芸分署)

四月十日、津市河芸庁舎にて、津市消防団河芸方面団辞令交付式及び新人訓練が行われました。

辞令交付式では、女性二名を含む十一名の入団者等へ辞令が交付され、消防団員は百八十一名となりました。

河芸方面団では、女性消防団員として初めて二名の方が入団され、今後の活躍が期待されます。

新人訓練では、号令どおりに規律ある動きを目指す「各個訓練」、いち早く消火するための「ホース延長訓練」と「放水訓練」を行い、今後の消防団活動に向けて技能を磨きました。

(前川 暁)



↑辞令交付式(上)と新人訓練(下)

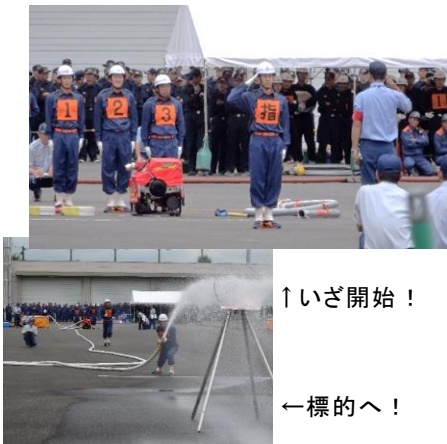
平成二十八年度三重県消防操法大会

(芸濃分署)

七月十六日、鈴鹿市の三重県消防学校で平成二十八年度三重県消防操法大会が開催され、芸濃方面団が小型ポンプ操法の部に出場しました。

この競技では、小型ポンプを使用し、一定のルールの基、操作開始から火元に見たてた標的を落とすまでのタイムと、正確で一体感のある動作を競うものです。

芸濃方面団は、一月から訓練を開始し、訓練礼式及び基本動作を繰り返し、基礎を徹底的に身に付けることから始まり、行動要領の熟練を経て水出し訓練までを、選手のみならず方面



いざ開始!

←標的へ!

団員と芸濃分署職員が一丸となり真剣に取り組んできました。

大会では、充分に実力を発揮できませんでしたでしたが、選手はこの訓練で得た消防技術や団結心等を、今後の消防団活動に生かしていくとのことです。団員の皆さま、サポーターの皆さま、お疲れ様でした。

(宮下 久志)

夏場の火災に向けて

(久居消防署)

私たち消防職員はどのような状況下でも出動します。助けに向かった私たちが現場で倒れるわけにはいきません。そのため、常日頃から体力錬成を行います。体も鍛えて災害に備えています。その中でも久居消防署で行っているトレーニング方法の一部を紹介したいと思います。

一つ目は、火災現場では必ず着る防火衣を着装した状態、さらにジェットシューター(背負式消火水のう)を交代で背負いながら炎天下の中でのランニングです。防火衣は普通の服よりも重たく、サウナスーツを着ているような状態で、ジェット

シューターも約十八リットルの水を入れて背負っています。

二つ目はタイヤ引きです。長さ約三十メートルのロープに重さ約四十キロのタイヤを結びつけ、腕の力でタイヤを手繰り寄せます。

他にも様々なトレーニング方法がありますが今回はこの二つを紹介させていただきます。普段から体力錬成を行い、夏の炎天下での現場活動でも十分に力を発揮できるように身体と精神力を鍛えています。

(小野 剛志)



↑約40kgのタイヤを手繰り寄せる

南分署よ永遠に！

(南分署)

もう少し、あと少し・・・。南分署は昭和五十年に建設されて、はや四十年以上経ちました。時の流れは建物を変化させてもまだまだ現役ですが、使われなくなり静かにたたずみ、色褪せてまるで人に忘れ去られた公園の遊具のように無言で鎮座しているものもあります。ここでは現役とあわせて三例ばかり紹介したいと思いま



左上は台帳・報告書類用の書庫でここはかつて分署長室だったみたいですよ(エアコンがその名残り?)。その右はおそらくロープを使った降下訓練の

施設かなと思います。いつお役目御免になったのだろう?何も語らず貫禄さえ感じます。下がいまだ現役、前回も紹介された畳敷きの仮眠室、ザ・昭和といった風情、ちなみに壁紙を貼り直したのは私でこちらも剥がれず現役。

いい味だしてる南分署、これからも現役であり続けますように。

と、言いたいところですが時の流れには逆らえず、ある計画が浮上して・・・

(小菅 英昭)

津市美里地域土砂災害防災訓練の実施

(美里分署)

六月五日、美里社会福祉センターで、土砂災害特別警報の発令に伴い、避難勧告が発表されたという想定で美里地域土砂災害防災訓練が実施されました。当日は天候不順で、予定されていた各地域の住民による避難訓練は出来ませんでした。が、机上訓練において、三重県職員から土砂災害が起こる前兆や種類の講義、保健師による避難所での衛生管理や、エコノミー症候群(長時間同じ姿勢で

いると足の血液の流れが悪くなつて血の塊が出来てしまう)にならないための体操、防災ゲーム等を熱心に取り組みされていました。



↑熱が入る机上訓練

また、地域住民による各地区の危険箇所や避難経路の再確認をし、自治会相互で防災情報を交わしながら交流を深めていきました。

今回、参加された地域の方々からは、「改めて自分が住んでいる地域の危険箇所の確認が出来て良かったです。」「もし、災害が発生したら、今回学んだことや避難経路を活用して慌てず落ち着いて、安全に避難したいと思います。」という声を聞き、とても充実した良い訓練が出来たと感じました。

(前川 敦史)

香良洲地域水防訓練

(香良洲分遣所)

六月十二日、香良洲町の香良洲海岸において香良洲地域水防訓練が実施されました。

今回の訓練は、「記録的な豪雨で香良洲地内に河川の氾濫及び堤防決壊の恐れがあり、また、道路の寸断により外部からの応援体制がとれない」との想定で行われました。

消防職員指導のもと香良洲地区自主防災協議会と消防団香良洲方面団が三班に分かれて、積み土のう工法と積み土のう防水シート組み合わせ工法に取り組みました。途中、実際の災害さながらに雨が降ってきましたが、終始熱心に訓練に打ち込み防災に対する地域住民の意識の高さを垣間見ることができました。

(水平 拓)



↑積み土のう工法を実施する参加者

君ヶ野ダム水難訓練
(白山消防署)

六月八日、白山消防署は美杉町八手俣の君ヶ野ダムで水難救助を想定し救命索発射銃と救命ボートの取扱訓練を実施しました。

訓練の内容は夏の季節に伴い増加する水難事故に備え、水難救助資機材の仕組みと操作を理解し、一人一人の技術向上を目的に行われました。

救命索発射銃は装填準備から発射工程までの流れを経験したことのない若い隊員達が主体となり行われ、初めて扱う資機材に戸惑いながらも懸命に取り組みました。



救命索発射銃の取扱訓練→



←救命ボート取扱訓練

救命ボートは組み立てから始まり、空気を入れ、水面にボートを浮かべてからエンジンモーターを取り付け四名交代でボートに乗り込み、実際の速さや危険となる動きがどの様なものかを体験しました。今回の訓練により隊員達は各隊の連携の幅を広げるとともに、夏の水難救助の心構えを持ち、白山消防署の今後の活動をより円滑にしたいと、気持ちを新たにしていきました。

(横山 隆平)

集まれ!!!

(一志分署)

七月十六日、三重県消防学校で平成二十八年度三重県消防操法大会が開催され、津市消防団一志方面団が小型ポンプ操法の部に出場しました。

当日は十二チームが参加する中、惜しくも六位との結果になりましたが、団員達は四十三秒といういつも通りのタイムをたたき出しました。

一志方面団は昨年十一月から週一回のペースで操法の訓練を行い、一志分署が新庁舎に改築された三月からは分署駐車場で週三回のハードな訓練を行ってきました。

一志分署の職員の熱い指導のもと何千回と集合線に集まりましたが、なかなか上手くいかず団員達は涙を流すことも多々ありました。大会当日は指揮者の号令のもと集合線に一直線に集まることができました。



↑一志方面団の面々

操法の選手、手伝いをした団員、指導した職員たちが汗を流した八カ月間が報われる瞬間でもありました。感動をありがとうございました。

(大野 学)

美杉方面団、指揮者・初任者研修及び水防訓練を実施

(美杉分署)

六月五日、伊勢地体育館、フットパーク美杉において磯田美杉方面団長以下幹部六十一名と、今年度新入団員五名による指揮者・初任者研修及び水防訓練が実施されました。

指揮者・初任者研修では、消防団幹部による統一のとれた部隊行動と、新入団員の不慣れながらも規律ある行動を学ぶ姿が見られ、一層、士気の高揚が図られました。

またフットパーク美杉での水防訓練では全員が小雨の中、積み土のう工法を美杉分署職員の指導のもと実施しました。

水防訓練に参加した新入団員は「土のう作りは初めてです。美杉地区は災害発生したら被害が大きくなると思いますので、今日の訓練を活かして、災害に対応できる様になりたいです。」と大汗をかきながら、技術の習得に励んでいました。

(谷内 正明)



→指揮者・初任者研修



→積み土のう工法

**平成二十八年上半期の
火災・救急・救助概況**

**【火災】出火原因一位は
「放火・放火の疑い」**

上半期に発生した火災は五十二件で、昨年同時期と比較すると十九件減少し、うち建物火災も二十件減少しましたが、その他の火災は六件増加しました。

出火原因の一位は「放火・放火の疑い(約二十九%)」で、年始から自動販売機が放火される火災が連続して発生したことによるものです。また、たき火が原因で周囲の枯れ草や可燃物に燃え移った火災も後を絶ちません。

区分	平成28年上半期	平成27年上半期	増減
火災件数合計(件)	52	71	▲19
火災種別(件)	建物火災	37	▲20
	うち住宅火災	11	▲8
	林野火災	2	▲1
	車両火災	10	▲4
	船舶火災	0	0
	その他の火災	22	6
死者(人)	0	2	▲2
負傷者(人)	5	10	▲5

(平成28年9月15日現在) ▲は減を示す

**【救急】軽症患者が
全体の約五十%超え**

全体の約五十%超え

区分	平成28年上半期	平成27年上半期	増減
出動件数	7,062	7,010	52
搬送件数	6,386	6,367	19
搬送人員(人)	6,468	6,456	12
主な事故種別(出動件数)	急病	4,425	50
	一般負傷	1,096	▲64
	交通事故	618	▲18

(平成28年9月15日現在) ▲は減を示す

上半期に発生した救急出動件数は七千六百二十二件でした。は七千六百二十二件でした。事故種別では急病が四千四百七十五件と最も多く、全体の約六十三%を占め、次いで一般負傷が千三百二十二件(約十五%)、交通事故が六百二十二件(約九%)でした。昨年同時期と比較すると、出動件数は五十二件増加し、搬送人員は十二人増加しました。

また、救急出動全体の約五十%が軽症患者でした。軽いけがや病気の(擦り傷、歯痛、風邪など)の場合などは、自家用車やタクシーなどでかかりつけの病院へ行きましょう。それが、本当に救急車を必要とする。救急車の適正利用に御協力をお願いします。

**【救助】交通事故による
救助出動が最多**

上半期の救助件数は六十一件でした。そのうち、交通事故が三十七件で全体の約六十%を占め、次いでその他事故が十六件、水難事故及び建物等による事故四件でした。

出動件数六十一件のうち、現場で活動した件数は三十五件で、十九人を救助しました。活動件数に入っていない二十六件については、救助隊が到着するまでに自力で脱出したものや、付近の住民などによって救出されたものです。

夏から秋にかけての行楽シーズンは、長距離の運転、海・山・川でのレジャーが増える時期です。交通事故や水の事故には十分注意しましょう。

区分	平成28年上半期	平成27年上半期	増減
出動件数	61	45	16
活動件数	35	29	6
救助人員(人)	39	31	8
主な事故種別(出動件数)	交通事故	26	11
	水難事故	4	0
	建物等による事故	6	▲2
	火災	1	▲1

(平成28年9月15日現在) ▲は減を示す

★ 主な行事予定 ★

◆ 十一月五日(土)
消防・防災フェスティバル
(津市消防本部・久居消防署)

◆ 十一月十三日(日)

平成二十八年度津市総合防災訓練
(津市立南ヶ丘小学校グラウンド他)

◆ 平成二十九年一月八日(日)
津市消防出初式
(津市河芸公民館・周辺グラウンド他)

編集後記

今年、台風一号が発生したのは七月三日で、これは史上二番目に遅い記録です。その後は例年並みに発生しましたが、八月下旬に三(九号・十号・十一号)の台風が日本列島に同時接近するとう珍現象、そして八月末には史上初となる東北地方に直接上陸という、極端な気象現象が連続しました。

このような中、鋭意企画中の行事が十一月五日開催の消防・防災フェスティバルです。今年恒例の消防本部が会場となり、今年恒例の各種体験ブースのほか、目玉として、消防士等の案内により建物内部の一階から三階までを巡る「見学ツアー」を初開催するなど、盛りだくさんの内容になっていきます。消防の仕事、生の現場を知っていただく意味でも重要な行事とお越しくさせていただきます。

(堀田)

新 津市誕生10周年記念

消防・防災 フェスティバル

平成28年11月5日(土) 津市消防本部 久居消防署 13:00~16:00

見学ツアーなど受付を伴うものは15:30に受付を終了します。

入場
(体験)
無料



▲指令センター見学



▲ちびっこレスキュー体験

体験してみよう 消防・防災!

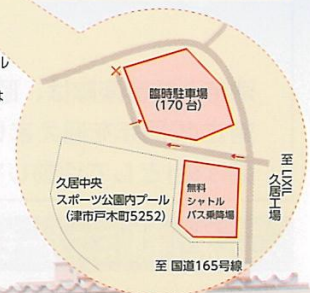
- 消防本部・消防署見学ツアー
- 消防車両展示
- ちびっこレスキュー体験
- AED体験
- 二人乗り電動ミニカー運転体験
- 救助訓練風景見学
- 防火服装着体験
- 初期消火体験
- 煙体験
- 地震体験車
- 消防音楽隊演奏
- 消防・防災に関する啓発

※天候などにより中止または内容を変更する場合があります。

会場・臨時駐車場・無料シャトルバスのりば位置図



会場周辺に駐車場はありませんので、臨時駐車場を津市久居中央スポーツ公園内プール(津市戸木町5252番地)前に設置します。臨時駐車場と消防本部間を無料シャトルバスが結びますので御利用ください。シャトルバスの臨時駐車場始発は12時30分、同最終便は15時30分発です。15分間隔で運転します。



津市出身演歌歌手
結城さおり

一日消防署長



平成28年度全国統一防火標語「消しましよ その火その時 その場所で」

主催：津市・津市消防本部 共催：津市消防団 後援：津市防火協会
お問い合わせ：津市消防本部 消防総務課企画調整担当 TEL：059-254-0353

津消防タイムズは津市ホームページ <http://www.info.city.tsu.mie.jp/> で御覧いただけます。